

社会福祉法人セーナー苑 平成27年度事業報告の概要

1 はじめに

平成27年度は、国において3年に1度の障害者福祉サービス等の報酬改定が実施されるとともに、社会福祉法人制度の改革を進める社会福祉法等の一部を改正する法律が本年3月31日に成立した。また、平成25年4月に施行された障害者総合支援法の附則では、施行後3年を目途として障害福祉サービスの在り方等について検討を加え、所要の措置を講ずることとされている。

セーナー苑では、これらの国の制度改正等の動向に留意しながら、社会福祉事業の安定的経営に努めた。

平成27年度の利用者へのサービスの提供については、「社会福祉法人セーナー苑運営方針」に基づき、利用者本位の視点に立ち、職員が一体となって、障害程度に応じたきめ細かなサービスの提供に努めた。

高齢化への対応については、職員の高齢者支援の知識や技術の向上を図るため、高齢知的障害者への支援に関する職員研修に積極的に参加したほか、医療・介護を含む個別サービスの充実や職員の連携による利用者支援の充実に努めた。また、身体機能が低下した利用者のための施設整備を進めるため、機械浴専用の浴室の設置や介護用電動ベッドの増設などを行った。

利用者の生活環境の改善については、老朽化した農場関係の建物の集約化や就労支援サービスに係る施設の改善などを行ったほか、空調設備や給湯用ボイラー等の大規模設備の計画的な更新に積極的に取り組んだ。

人材の確保については、これまでの社会経験を活かしながら、新たに障害者支援の仕事に携わる意欲のある方も受験しやすいように、年齢制限をなくし7名の正規職員の採用を行った。

財政運営については、平成27年度の報酬改定により減収を懸念していたが、利用料収入はほぼ前年並みとなり、経費節減や計画的な予算執行に努めた結果、おおむね順調に推移した。

2 施設入所支援（障害者支援施設 6施設：380名）

〔 居宅者が利用する次のサービスを含む。 〕
生活介護10名、短期入所12名、日中一時支援12名

（1）障害者支援施設ほほえみの丘

比較的年齢の高い利用者に対し、心身ともに健康で快適な生活を提供し、生きがいとゆとりのある暮らしが送れるように支援を行った。

（施設入所支援80名、生活介護80名、短期入所2名、日中一時支援4名）

（2）障害者支援施設やまびこの丘

強いこだわりなどの特異な不適応行動を示す利用者に対し、適切な療育の機会を提供し、安定した生活が送れるように支援を行った。

（施設入所支援50名、生活介護50名、短期入所2名、日中一時支援2名）

（3）障害者支援施設こだまの丘

強度行動障害者を含む障害の重い利用者に対し、周辺生活の自立と自由なふれあいを通して、社会性と個性の伸長を図り、安定した生活が送れるように支援を行った。

（施設入所支援50名、生活介護50名、短期入所2名、日中一時支援2名）

（4）障害者支援施設のぞみの丘

比較的障害の重い利用者に対し、洗濯班や紙すき班などのグループ活動のほか、散歩やサークル活動、余暇活動を取り入れて、充実した生活が送れるように支援を行った。

（施設入所支援60名、生活介護60名、短期入所2名、日中一時支援2名）

（5）障害者支援施設はるかぜの丘

比較的障害程度の軽い利用者に対し、生産活動への参加と生活を通して、働く喜びと自立への意欲を育て、生きがいのある生活が送れるように支援を行った。

（施設入所支援80名、生活介護80名、短期入所2名、日中一時支援2名）

（6）障害者支援施設わかくさの丘

日常生活の中で、常時介護を必要とする身体障害者に対し、身体機能の維持増進を図り、心の豊かさと生きがいのある生活が送れるように支援を行った。

（施設入所支援60名、生活介護70名、短期入所2名）

(7) 生活介護（再掲）

わかくさの丘において、居宅者を対象に潤いのある生活が送れるよう、日常生活に必要な介護及び支援を行った。

（延べ利用者数：186人）

(8) 短期入所：宿泊を伴うショートステイ（再掲）

居宅において介護する家族の負担を軽減するため、居宅者を対象に6か所の障害者支援施設を利用して、障害者の介護や日常生活上の支援を行った。

（延べ利用者数：742人）

(9) 日中一時支援：日帰りショートステイ（再掲）

障害者の家族の都合等により、日中に障害者を預かり、日常生活の支援を行った。

対象施設：ほほえみの丘、やまびこの丘、こだまの丘、のぞみの丘、はるかぜの丘、萌黄

（延べ利用者数：68人）

3 地域生活サービス

(1) 障害福祉サービス事業所萌黄

居宅者を対象（グループホーム等入居者を含む。）に、潤いのある生活が送れるよう日常生活に必要な介護及び支援を行うとともに、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう生活能力の維持、向上等のために必要な支援を行った。

（生活介護30名、自立訓練（生活訓練）10名、日中一時支援2名）
（延べ利用者数：生活介護6,591人、自立訓練965人）

(2) 就労支援事業所あおぞら

一般就労を希望する障害者並びに雇用に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会を提供し、障害者が豊かに暮らせるよう支援を行った。

（就労移行支援10名、就労継続支援B型10名）
（延べ利用者数：就労移行支援998人、就労継続支援B型2,432人）

(3) 就労継続支援事業所工房Coco

居宅者を対象（グループホーム等入居者を含む。）に、働く喜びと自立への意欲が持てるよう、生産活動等の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を行った。

（就労継続支援B型20名、延べ利用者数：4,787人）

(4) セーナー苑グループホームほのか

企業や施設において一般就労や福祉的就労に就いている障害者に対し、地域において自立した生活を営むことができるよう、世話人のもとに日常生活を営むうえで必要な援助や介護を行った。

（セーナー苑グループホームほのか 39名）
（船峠の家8名、上二杉の家8名、長附の家6名、桜ヶ丘の家5名）
（野田の家7名、サルビアの家5名）

4 地域総合支援

(1) 障害者就業・生活支援センター事業

国や県の委託を受け、富山障害者就業・生活支援センターにおいて、障害者の雇用を促進するための支援及び生活支援を一体的、総合的に実施した。

(2) 職場適応援助者事業（ジョブコーチによる支援事業）

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構からの委託を受け、職場適応援助者（ジョブコーチ）が、障害者が職場に円滑に適応し安定した職業生活が送れるよう支援した。

(3) 障害者相談支援事業

セーナー苑相談支援事業所W e ネットにおいて、次の事業を実施した。

① 富山市障害者相談支援事業

富山市から委託を受け、障害者及び障害児の保護者からの相談に応じ、情報の提供及び助言、その他障害福祉サービスの利用、権利擁護のための援助等必要な支援を行った。

② 富山市基幹相談支援事業

富山市社会福祉事業団から委託を受け、富山市障害者福祉プラザにおいて障害者及び障害児の保護者からの相談に応じ、情報の提供及び助言等必要な支援を行うとともに相談支援事業者等への情報提供や助言等を行った。

③ 指定計画相談支援の提供

サービス等利用計画の原案作成並びにサービス利用計画のモニタリングを行い、利用者並びに市町村に提供した。

(4) 障害者雇用促進事業

富山県から委託を受け、障害者雇用推進員を配置して、事業所訪問等により障害者の各種雇用施策の周知、啓発等を行い、障害者の雇用促進を図った。

5 ボランティア・見学者・実習生の受け入れ

施設や利用者への理解を促進するため、ボランティア、見学者、実習生を積極的に受け入れた。

6 職員の資質の向上

新任職員や幹部職員を対象とした研修を開催するとともに、県内外で開催された多数の会議や研修会等に積極的に参加し、研鑽に励んだ。

7 成年後見人制度の利用拡大

利用者の権利と財産の保全を図るため、成年後見人制度の申請を勧めた結果、平成27年度末登記済件数は84件となった。

8 苦情等の処理

利用者や保護者等からの意見を収集するために各施設や事業所に「意見箱」を設けるとともに、福祉サービスに関する苦情解決のための窓口や責任者並びに苦情解決第三者委員（2名）を設け、利用者や保護者等からの苦情等に対応した。

9 決算の概要

(1) 収 益

障害福祉サービス等事業収益は、自立支援給付費等収益、補助金事業収益、受託事業収益の3科目を合わせて、前年度と比べ22,799千円増の1,759,467千円となった。苑の運営財産の根幹をなす自立支援給付費等収益は、平成27年度の報酬改定により給付費は減収したが、重度障害者支援加算の増収などに伴い28,378千円増の1,715,097千円となり、補助金事業収益は、障害児施設入所加齢児受入支援事業の対象となる利用者がいなかったことなどにより2,431千円減の4,326千円となり、受託事業収益は、富山市基幹相談支援事業の相談支援専門員が交代したことなどにより3,148千円減の40,044千円となった。

就労支援事業収益は、就労支援事業所あおぞらにおいて、利用者の生産活動に野菜の販売などを加えたことから前年度と比べ1,962千円増の28,636千円となった。

苑診療所の医療事業収益は、障害支援区分の認定に必要な医師意見書の作成件数が増加したことなどにより、前年度と比べ764千円増の16,058千円となった。

経常経費寄附金収益は、大口の寄附がなかったことなどにより322千円減の1,955千円となった。

生活介護における生産活動のその他の収益は、はるかぜの丘の利用者が生産している農芸、椎茸などの生産物収入が減少したことなどから、前年度と比べ1,362千円減の4,204千円となった。

借入金利息補助金収益は、過去に整備した建物等の借入金の減少に伴い、利子補給金や償還補助金が、前年度と比べ1,994千円減の3,999千円となった。

受取利息配当金収益は、受取利息が減少し、29千円減の14,582千円となった。

その他のサービス活動外収益は、前年度決算に落雷罹災による共済金が含まれていたことなどから、前年度と比べ5,876千円減の7,997千円となった。

施設整備等補助金収益は、過去に整備した建物等の借入金の利子補給金や償還補助金が、前年度と比べ55千円増の68,781千円となった。

施設整備等寄附金収益は、セーナー苑育成会からの大口の寄附がなかったことから、前年度と比べ10,680千円減の皆減となった。

この結果、当期収益総額は、前年度と比べ5,317千円増の1,905,679千円となった。

(2) 費用

支出の大部分を占める人件費は、サービスの拡充に伴い正規職員7名を増員したことにより、前年度と比べ37,912千円増の1,085,706千円となった。

事業費は、経費の節減に努めたことなどにより、前年度と比べ6,697千円減の148,558千円となった。

事務費は、前年度決算に研修センターの改築や落雷に伴う修繕などが含まれており、大規模修繕工事が減少したことなどから、前年度と比べ8,014千円減の350,063千円となった。

就労支援事業費用は、就労継続支援事業所工房C o C oの就労指導員支出の減少などから515千円減の31,726千円となった。

減価償却費は、償却が終了した資産の増加などから、前年と比べ24,829千円減の116,680千円となった。

国庫補助金等特別積立金取崩額は、過去に整備した建物等の国庫補助金相当額を国庫補助金等特別積立金として積み立てているが、平成27年度の減価償却額に相当する額を取り崩したもので、前年と比べ1,099千円減の64,281千円となった。

支払利息は、過去に整備した建物等の借入金の減少に伴い、前年度と比べ1,994千円減の3,999千円となった。

基本金組入額は、基本財産に組み入れる大口の寄付がなかったことから、前年度と比べ10,000千円減の皆減となった。

固定資産売却損・処分損は、器具及び備品等の廃棄処分に伴い、158千円増の158千円となった。

この結果、当期費用総額は、前年度と比べ12,880千円減の1,672,609千円となった。

(3) 繰越活動増減差額

当期活動増減差額は、前年度と比べ、18,197千円増の233,069千円となった。

これに、前期繰越活動増減差額1,008,093千円やその他の積立金取崩額68,287千円を加え、これから、その他の積立金積立額210,488千円を引いた1,098,961千円が次期繰越活動増減差額となった。

障害者支援施設ほほえみの丘 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
1丁目（女子）				5	11	13	29
2丁目（男子）		1	3	8	8	11	31
3丁目（男子）		1	1	3	9	6	19
計			4	16	28	30	79

<年度内異動> ・退所者…4名（わかくさの丘1名、老健施設1名、死亡2名）
 ・入所者…3名（やまびこの丘1名、こだまの丘1名、はるかぜの丘1名）

2 支援状況

(1) 内 容

① 健康と安全の確保

ア 毎朝の検温、排便表のチェック、食事摂取量、顔色、睡眠状況、行動観察などにより、一人ひとりの心身状況の把握に努めるとともに、疾病の早期発見に心がけた。

また、新たにストーマ造設の利用者が発生したが、医務部と連携を密にして、健康で安全な生活が送れるよう支援した。

イ 精神科診察の前に支援会議（ケースカンファレンス）を開催し、身体状況、行動記録等の経過について話し合い、支援方法の統一を図った。

ウ 精神科診察時に、支援会議の結果を基に経過を報告し、服薬及び支援方法について、助言を受けている。

エ インフルエンザ予防接種を行い、疾病の予防や早期発見に努めた。

オ 利用者一人ひとりの栄養状態を調査し、看護師、栄養士、支援員とで、栄養アセスメントを実施して栄養管理に努めた。

カ 火災発生を想定した避難訓練を年2回（日中と夜間を想定）実施し、利用者の安全の確保に努めた。

キ 高齢者に対応するため電動ベッドを購入し、高齢化に対応した施設整備の充実を図った。

② 日常生活

殆どの利用者が重度の知的障害者であり、また高齢者であるため、一人ひとりの自主性を尊重するとともに、能力の差に注意を払いながら、基本的な生活習慣の確立に向けて支援した。

ア 清潔……洗面、歯磨き、手洗い、うがい、爪切り、耳垢除去等の介助・支援の徹底に努めるとともに、水虫や血行障害、踵の角化など防ぐため足のマッサージを実施しフットケアに努めた。

イ 食事……咀嚼力が年々低下し、粥食やきざみ食が多くなっているほか、嚥下障害に対しては、お茶ゼリーやトロミを使用した。また、生活習慣病や腸閉塞などの疾病により、特別食を必要とする利用者が増えており、看護師や栄養士と相談しながら、その予防や栄養管理に努めた。

ウ 排泄……加齢とともに腸の働きも衰え、便秘症の利用者が増えている。

便秘によって腸閉塞を起こすため、排便の有無を確認し、記録するとともに、緩下剤により排便調整を行った。

また、加齢や機能障害により、尿失禁者が増え、尿とりパッドや紙パンツ、Dパンツの利用者が増えてきており、定時排泄の支援を行っている。

③ 日中活動

ア 作業活動

女子は、貼り絵、玉通し、毛糸編み（アクリルたわし作り）、男子は、牛乳パックの粉碎（あぶらポイッと作り）を行った。

イ ミュージック・ケア、体力づくり

週2回（火・木）実施しており、利用者は興味を持って参加した。

ウ バスドライブ

買物と合わせて実施した。

エ 喫茶

利用者からの要望により自治会役員も協力して実施しているが、平成27年度は面会日に行い保護者と一緒に楽しんでいただいた。

④ 余暇活動（合唱クラブ、和太鼓クラブ、フラワーアレンジメント、書道教室、映画上映会）講師を招いて実施しており、利用者が好みのクラブを選択して参加した。

⑤ 自治会活動

利用者の自主活動や要望を尊重するとともに、日頃の丘運営に反映されるよう、食堂ホールの大掃除、献立メニューの放送、行事のお知らせなどの自治会活動を支援した。

⑥ 機関誌「ほほえみだより」の発行（年4回）

保護者に、ほほえみの丘の情報等を発信した。

(2) 問題点

① 高齢化に伴い体力が衰えており、発熱や誤嚥性肺炎のほか骨折で入院する利用者が目立った。また、救急車を要請したこともあり、夜間における健康管理が重要となっている。

② 利用者間のトラブルが絶えず、情緒の安定を図るため、日中活動のより一層の充実が必要となっている。

③ 高齢化に伴い、通院回数も多く、延べ550回の通院があり、毎年、体力の衰えや認知症により介護保険適用施設に入所する利用者が発生している。

介護保険適用施設への移行が難しいことから、心身機能の低下を防ぐ訓練の充実をはじめ介護技術の向上、医療ケアの充実などのへの積極的な取り組みが必要となっている。

3 その他の取り組み状況

(1) 保護者等からの苦情等の処理

保護者来苑日の全体懇談会、個別懇談会を通じて、家族との関係強化に努めるとともに、意見箱への意見を活用するなど、利用者が安心して暮らせるよう配慮した。

(2) ヒヤリ・ハット状況

平成27年度中のヒヤリ・ハットは107件あったが、丘内で定期的に会議を行い、事故防止に努めた。

(3) 成年後見人制度の普及啓発

平成27年度末登録済件数 31件

(4) 個別支援計画書の見直し

半年に1度、モニタリングを行い、保護者と面接のうえ、要望を聞きながら個別支援計画の見直しを図った。

(5) 在宅障害者に対する支援

短期入所サービスを延べ162日間（実利用人数5名）提供した。

4 今後の重点課題

(1) 利用者の高齢化が進んでいることから、医師や看護師、栄養士と連携して、利用者の健康管理に努めていきたい。

(2) 利用者の高齢化に伴い、容易に介護保険適用施設に入所できるシステムを構築するとともに、高齢知的障害者への支援に関する職員研修の充実や身体機能が低下した利用者のための施設整備を進めていきたい。

障害者支援施設やまびこの丘 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
しらかば通り(男子)			1	6	14	10	31
あすなる通り(女子)				4	7	8	19
計			1	10	21	18	50

<年度内異動> ・退所者…1名（ほほえみの丘1名）
 ・入所者…1名（自宅1名）

2 支援状況

(1) 内容

① 健康と安全の確保

- ア 医務部と連携して、利用者の毎朝の健康チェックと定期的に精神科、内科診察、定期健康診断などを実施して、健康で安全な生活が送れるよう支援した。
- イ 火災発生を想定した避難訓練を年2回実施し、利用者の安全確保に努めた。

② 日常生活

- ア 強いこだわりなどの特異な行動や重い障害のある利用者が多いため、個別支援計画に沿って一人ひとりに合った支援に努めた。
- イ 咀嚼・嚥下力の低下等の利用者నికిざみ、粗きざみ、トロミ等の食事を提供した。

③ 日中活動

- ア 利用者の要望や能力、適性を考慮し、日中活動の充実に努めた。
- イ リサイクル班では、アルミ缶回収や段ボール回収を地域のネットワークを活用し積極的に行った。
- ウ 陶芸班、手芸班で制作した製品を自然ふれあい学習館やセーナー苑祭などで販売し、利用者への作業意欲の励みとした。
- エ 機能訓練班では、作業療法士の支援を受けながら、リハビリを継続的に行った。
- オ 体力班では、感覚統合訓練や、できるだけ身体を動かす活動を行い、身体機能の維持に努めた。
- カ 「ミュージック・ケア」をはじめ「リズム体操」、「バスドライブ」を定期的
に実施し、運動感覚の改善や情緒の安定に努めた。

名 称	活 動 概 要
リサイクル班(15名)	アルミ缶の回収とプレス、段ボールと古紙の回収
陶 芸 班(5名)	日用雑器などの制作
手 芸 班(4名)	ビーズ手芸、腕輪念珠の制作
機 能 訓 練 班(7名)	機能訓練、作業療法
体力づくり班(19名)	散歩、簡単な運動、バスドライブなど

④ 余暇活動

外部の講師を招いて、美術教室、合唱クラブ、和太鼓クラブ、ダンスクラブ、フラワーアレンジメント、リズム体操を行い、技術の習得と生き甲斐づくりに努めた。

⑤ 自治会活動

利用者の重度化に伴い、年々運営は難しくなってきたが、行事等に意見や要望が反映されるよう自治会活動を支援した。

⑥ 地域交流活動

ア 秋の交通安全期間中には地域の「押し花おおさわの会」の方と一緒に、腕輪念珠を配布した。

イ 6月と3月にリサイクル活動の支援団体「アルミ缶ネットワーク」との交流会を行った。

⑦ 機関誌「やまびこだより」の発行（年4回）

保護者に、やまびこの丘の情報等を発信した。

(2) 問題点

① 壁、ドア等の破損が多く、修繕箇所が多い状況である。

② 利用者が突発的に不穏やパニック状態となった際、本人と他利用者の怪我予防のための個別対応ができる個室が少なくなっている。

③ 高齢な利用者の日中活動への参加が難しくなってきた。

3 その他の取り組み

(1) 保護者等からの苦情等の処理

保護者来苑日には、個別懇談、丘や各通りの懇談会を実施し、家族との相互理解並びに関係強化に努めた。

(2) ヒヤリ・ハット状況

平成27年度中のヒヤリ・ハットは89件あったが、丘内で定期的に会議を行い事故防止に努めた。

(3) 成年後見制度の普及啓発

平成27年度末登録済件数 9件

(4) 個別支援計画の見直し

利用者のニーズを取り入れ、6ヶ月に1度モニタリングを行い、保護者と話し合い、支援についての相互理解に努めながら個別支援計画の見直しを行った。

(5) 在宅障害者に対する支援

短期入所サービスを延べ267日間（実利用人数8名）提供した。

4 今後の重点課題

(1) 修理、修繕の迅速化を図るとともに、利用者の特性に応じた環境を整えるなど生活環境の整備、充実に努める。

(2) 強度行動障害の療育に関する勉強会や研修を行い、コミュニケーションをしっかりとると共にきめ細かな支援に努める。

(3) 不穏になりやすい利用者には特に注目し、落ち着いて安全な生活が送れるよう、把握の徹底と医療との連携に努める。

(4) 利用者の重度化に伴い、リサイクル班での資源回収を中止し、アルミ缶を潰す作業を中心に一人ひとりに合った活動の充実に努める。

障害者支援施設こだまの丘 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
きりの木通り(男子)				8	15	9	32
ねむの木通り(女子)				3	7	8	18
計				11	22	17	50

<年度内異動> ・退所者…3名（ほほえみの丘1名、わかくさの丘1名、）
死亡1名）

・入所者…3名（はるかぜの丘1名、自宅2名）

2 支援状況

(1) 内容

① 健康と安全の確保

- ア 医務部と連携して、利用者の毎朝の健康チェックと定期的に精神科、内科診察、定期健康診断などを実施して、健康で安全な生活が送れるよう支援した。
大腸壊死によるストーマ装着の利用者1名については、引き続き医務部と連携を密にして、健康で安全な生活が送れるよう支援した。
- イ 利用者の重度化と共に咀嚼能力が低下した利用者が多くなってきたことから、喉詰め対応訓練を実施し救急マニュアルを作成し緊急時に備えた。
- ウ 火災発生を想定した避難訓練を年2回実施し、利用者の安全確保に努めた。

② 日常生活

- ア 行動障害者を含む障害の重い利用者が多いため、個別支援計画に沿って一人ひとりに合った支援に努めた。
- イ 夜間発作時の危険予防のため、低床ベッドや床にマットを敷いて怪我の予防に努めた。また、破壊行為のある利用者に対しては柔道畳などを利用するなど工夫をした。
- ウ 咀嚼・嚥下力の低下等の利用者にはきざみ、粗きざみ、トロミ等の食事を提供した。

③ 日中活動

- ア 利用者の要望や能力、適性を考慮し日中活動の充実に努めた。
- イ リサイクル班では、アルミ缶回収を地域のネットワークを活用し積極的に行った。
- ウ 陶芸班、手芸班で制作した製品を自然ふれあい学習館やセーナー苑祭などで販売し、利用者への作業意欲の励みとした。
- エ 機能訓練班では、作業療法士の支援を受けながら、リハビリを継続的に行った。
- オ 体力班では、散歩を中心に、雨天時はふれあいホールでのウォーキングやレクレーションを行い体力の維持に努めた。
- カ 「ミュージック・ケア」をはじめ「リズム体操」、「バスドライブ」を定期的
に実施し、運動感覚の改善や情緒の安定に努めた。

名 称	活 動 概 要
リサイクル班(12名)	アルミ缶の回収とプレス
陶 芸 班(3名)	日用雑器などの制作
手 芸 班(8名)	ビーズ手芸、腕輪念珠の制作、刺し子
機 能 訓 練 班(8名)	機能訓練、作業療法
体力づくり班(19名)	散歩、簡単な運動、バスドライブなど

④ 余暇活動

外部の講師を招いて、美術教室、合唱クラブ、和太鼓クラブ、ダンスクラブ、フラワーアレンジメント、リズム体操を行い、技術の習得と生き甲斐づくりに努めた。

⑤ 自治会活動

利用者の重度化に伴い、年々運営は難しくなってきたが、行事、おやつ作り等を行い利用者が楽しめる活動を支援した。

⑥ 地域交流活動

ア 秋の交通安全期間中には地域の「押し花おおさわの会」の方と一緒に、腕輪念珠を配布した。

イ 6月と3月にリサイクル活動の支援団体「アルミ缶ネットワーク」との交流会を行った。

⑦ 機関誌「こだまだより」の発行（年4回）

保護者に、こだまの丘の情報等を発信した。

(2) 問題点

① 行動障害を伴う重度の知的障害者のトラブルが増加していることから個室対応やメンバー交代など居住区の見直しを行ったが、十分な効果は得られていない。

② 個別対応が必要な利用者の増加に伴い、日中活動におやつ作りを加えたり外出を増やしたところ情緒の安定は見られたが、引き続き活動内容の充実が必要である。

3 その他の取り組み

(1) 保護者等からの苦情等の処理

保護者来苑日には、個別懇談、丘や各通りの懇談会を実施し、家族との相互理解並びに関係強化に努めた。

(2) ヒヤリ・ハット状況

平成27年度中のヒヤリ・ハットは54件あったが、丘内で定期的に会議を行い事故防止に努めた。

(3) 成年後見制度の普及啓発

平成27年度末登録済件数 8件

(4) 個別支援計画の見直し

利用者のニーズを取り入れ、6ヶ月に1度モニタリングを行い、保護者と話し合い支援についての相互理解に努めながら個別支援計画の見直しを行った。

(5) 在宅障害者に対する支援

短期入所サービスを延べ46日間（実利用人数5名）提供した。

4 今後の重点課題

(1) 利用者の一人ひとりに適した療育を行うため、強度行動障害の療育に関する勉強会や研修に参加し、きめ細かな支援に努める。

(2) 重度化、高齢化とともにトラブルが増加してきているが、アクシデントに繋がらないように、把握の徹底に努める。

(3) 利用者の重度化に伴い、リサイクル班での資源回収を中止し、アルミ缶を潰す作業を中心に一人ひとりに合った活動の充実を努める。

障害者支援施設のぞみの丘 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
かしの木通り(男子)				1	8	12	21
小 宿 舎(男子)			3	2	12	3	20
かえで通り(女子)			2	2	6	10	20
計			5	5	26	25	61

<年度内異動> ・退所者…0名
 ・入所者…0名

2 支援状況

(1) 内 容

① 健康と安全の確保

ア 医務部と連携して、利用者の日々の体調管理や疾病の早期発見、怪我の未然防止に努めた。

イ 適宜、精神科診察やケースカンファランスを行い、支援方法の統一を図った。

ウ 火災発生を想定した避難訓練を年2回実施し、利用者の安全の確保に努めた。

② 日常生活

ア 重度の知的障害者で強い拘りを持った利用者が多いため、能力の差に注意を払いながら、日課の点検を定期的に行い、日常生活を営むうえでの基本的な生活リズムが整えられるようきめ細かな支援に努めた。

イ 咀嚼・嚥下力の低下等の利用者నికిざみ、粗きざみ、トロミ等の食事を提供した。

③ 日中活動

ア 利用者の要望や能力、適正を考慮し日中活動の充実に努めた。

イ 「ミュージック・ケア」や「バスドライブ」も定期的を実施し、情緒の安定や運動感覚の改善に努めた。

名 称	活 動 概 要
洗濯班（7名）	障害が比較的軽い利用者や体力のある利用者を中心に、苑内で暮らす利用者の衣類の洗濯作業を担当した。
紙すき班（20名）	障害が重い利用者を中心に、牛乳パックをリサイクルして、あぶらポット、コースター、ランチョンマット等を作成、販売した。
健康班（34名）	障害が特に重い利用者を中心に、体力に応じてグループに分けて、苑周辺を散歩した。 (雨天時には棟内ウォーキング等を実施)

④ 余暇活動

趣味的活動として、ダンス、太鼓、合唱のクラブ活動に参加した。

また、利用者に好評な喫茶は、第1木曜日、第3土曜日に月2回実施した。
宿泊旅行は、利用者の要望に応じて、少人数で実施した。

⑤ 自治会活動

利用者の自主活動や要望を尊重し、日頃の丘運営に反映されるよう、季節の行事、お別れ会などの自治会活動を支援した。

⑥ 機関誌「のぞみの丘だより」の発行（年4回発行）

保護者に、のぞみの丘の情報等を発信した。

(2) 問題点

① 障害の重度化、問題行動などに伴うニーズが多様化し、個別対応が必要な利用者
者の日中活動の維持が困難になってきている。

② 通院の回数も359件と多く、限られた職員の中での付き添いに苦慮している。

3 その他の取り組み状況

(1) 保護者等からの苦情等の処理

保護者来苑日の個別懇談会を通じて、家族との相互理解に努め、利用者が安心して暮らせるよう配慮した。

(2) ヒヤリ・ハット状況

平成27年度中のヒヤリ・ハット113件あったが、丘内で定期的に会議を行い事故防止に努めた。

(3) 成年後見人制度の普及啓発

平成27年度末登記済件数 6件

(4) 個別支援計画書の見直し

半年ごとにモニタリングを行い、保護者と話し合いのうえ個別支援計画の見直しを行った。

(5) 在宅障害者に対する支援

短期入所サービスを延べ39日間（実利用人数3名）提供した。

4 今後の重点課題

(1) 利用者の一人ひとりが心身ともに健康で、居心地の良い住まいの場となるよう、
適時適切な支援に努める。

(2) 利用者主体の自治会活動により、利用者が生き甲斐のある生活が送れるよう、
利用者支援に努める。

(3) 利用者は重度化してきているが、洗濯班や紙すき班の活動の活性化を図り充実した
日中活動に努める。

障害者支援施設はるかぜの丘 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男 子 棟		4	17	25	5	1	52
女 子 棟			3	15	8	2	28
計		4	20	40	13	3	80

＜年度内異動＞ ・退所者…2名（ほほえみの丘1名、こだまの丘1名）
 ・入所者…2名（苑GH1名、自宅1名）

2 支援状況

(1) 内 容

① 健康と安全の確保

ア 病気や怪我を防止するため、利用者の行動特性や健康上の留意事項を的確に把握するとともに、医務部と連携して、利用者が健康で安全な生活が送れるよう支援した。

イ 火災発生を想定した避難訓練を年2回実施し、利用者の安全の確保に努めた。

② 日常生活

利用者の高齢化や重度化に伴い、基本的な生活習慣を維持し、健康で安全な生活が送れるよう必要な支援を行った。

③ 日中活動

ア 生き甲斐のある充実した生活が送れるよう、適時適切な授産活動や生活支援に努めた。

イ 農芸、椎茸栽培、手工芸及び内職の作業を設定して、作業効率の向上、作業意欲の向上に努めた。

ウ 苑内での消費や販売のほか、近隣地域や各種イベント、苑行事等における販売活動に努めた。

エ 本人支給金を支給し、利用者に働く喜びと生き甲斐を感じてもらえるよう支援した。

オ 生活介護では、カレンダー作り、季節に応じた装飾、環境整備、喫茶などの活動を取り入れて、ゆとりある生活が送れるよう支援した。

名 称	活 動 概 要
農 芸（16名）	農作業を中心に季節の野菜を栽培し、苑内外で販売している。また、はぶ茶の加工処理、販売も行っている。
椎茸・手工芸・内職（31名）	椎茸の栽培及び販売、手工芸品の製作及び販売、内職作業の3班が相互に協力しながら活動している。 椎茸は苑内のほか地域でも販売している。 手工芸は伝統的な船舳織りの技法を受け継ぎ、県内の観光地を中心に販売している。 内職はゴミ袋の袋づめ、タオル整理を中心に行っている。
内 職（26名）	プラスチックのバリ取りを中心に行っている。
苑内事業所での活動（7名）	就労継続支援事業所工房C o C oや就労移行支援事業所あおぞらで活動している利用者もいる。

④ 余暇活動

ア 利用者のニーズに応じた社会経験の機会及び生活面における変化と活力が得られるよう、社会見学、買い物、宿泊旅行等の苑外学習やリクリエーションの機会を設けるなど、社会生活面の支援に努めた。

イ 専門家を招いた「生きがい学級」活動を通して、自主性を育むとともに、発表の機会を設け、社会参加と生き甲斐を持てるよう支援した。

また、各教室の運営や企画について、利用者も参画できるよう努めた。

ウ 希望する利用者に対し、大沢野駅伝や各種スポーツ大会などへの参加を支援した。

⑤ 自治会活動

利用者の自主的な活動（親睦、生きがい学級、日々の懇談）を尊重し、有意義な生活を送れるよう努めた。

⑥ 機関誌「はるかぜだより」の発行（年2回発行）

はるかぜの丘通信として、保護者に対し、情報等を発信した。

(2) 問題点

① 利用者の高齢化により作業意欲の低下等が懸念されるほか、身体的理由から丘で過ごす利用者が増加傾向にある。

② グループホーム・ケアホームへの移行や本格的な就労に結びつけることが難しくなっている。

3 その他の取り組み状況

(1) 保護者等からの苦情等の処理

保護者来苑日の個別懇談会を通じて、家族との関係強化を図るとともに、意見箱の活用などにより、利用者が安心して暮らせるよう配慮した。

(2) ヒヤリ・ハット状況

平成27年度中のヒヤリ・ハットは45件あったが、丘内で定期的に会議を行い事故防止に努めた。

(3) 成年後見人制度の普及啓発

平成27年度末登記済件数 11件

(4) 個別支援計画書の見直し

半年ごとに利用者個々の生活を評価するとともに、本人の意思を尊重し、自己決定に基づく個別支援計画を見直し、保護者に説明した。

(5) 在宅障害者に対する支援

短期入所サービスを延べ189日間（実利用人数6名）提供した。

4 今後の重点課題

(1) 平成24年度から就労継続支援（B型）が分離し、生活介護単独の活動となったことから、更に充実したサービスが提供できるよう努める。

(2) 利用者の高齢化に伴う病気や怪我の予防に努め、健康で安全な生活を確保するため、医務との連携に努める。

(3) 日中活動の充実を図り、生き甲斐が持てる生活の提供に努める。

障害者支援施設わかくさの丘 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
1丁目（女子）					7	21	28
2丁目（男子）				1	7	24	32
計				1	14	45	60

<年度内異動> ・退所者…2名（病院2名）
 ・入所者…2名（ほほえみの丘1名、こだまの丘1名）

2 支援状況

(1) 内 容

① 健康と安全の確保

ア 医務部と連携して、利用者の日々のバイタルチェック（検温・排泄状況等）、定期の血圧測定、精神科や内科診察、体重測定、検査（尿・血液・成人病検診）、食事療法などを行い、健康で安全な生活が送れるように支援した。

イ 火災発生を想定した避難訓練を年2回（日中と夜間を想定）実施し、利用者の安全の確保に努めた。

② 日常生活

身だしなみ、排泄、食事、入浴等の介護を通して、清潔で快適な生活と自立に向け支援した。

ア 食事……咀嚼の低下、嚥下障害の利用者には、刻食やトロミ食、お茶ゼリーを提供するとともに、障害に合った食べやすいスプーンや食器等の提供に努めた。

イ 入浴……安心して気持ちよく入浴できるよう、障害状況に応じて寝台浴やチェア浴を利用して支援した。

ウ 移動……作業療法士と相談し、利用者の障害状況に適応した車椅子や各種の福祉用具を備えるなど、安全で快適な生活が送れるよう支援した。

③ 日中活動

ア リハビリ、作業療法、ミュージック・ケア、歩行訓練を取り入れて、機能低下を防止するとともに、生活意欲の向上に努めた。

イ 趣味的活動として、外部講師を招いて、利用者の希望を取り入れた絵画、合唱、書道の教室をそれぞれ月1回開催し、生活の質の向上に努めた。

④ 余暇活動

ア プロジェクターを使用してDVD観賞やカラオケを楽しんだほか、身障用のエアートランポリンを活用し、心身の癒しの確保に努めた。

イ 少人数による買い物や軽食、ドライブ等の外出の機会を全員に提供し、潤いのある時間の確保に努めた。

ウ 月1回の喫茶会や季節に応じたレクリエーション等の憩いの時間を設けて生活の変化に努めた。

⑤ 自治会活動

季節行事等の立案に利用者も加わり、利用者の自主性を尊重しながら、楽しい行事を開催した。

⑥ 機関紙「わかくさ」の発行（年4回）

保護者に利用者の生活状況を理解してもらうため、わかくさの丘の情報等を発信した。

(2) 問題点

- ① 高齢化に伴い、体力の衰えとともに身体状況も年々重度化していることから、介護面における専門的な知識と高度な介護技術が必要となっている。
- ② えん下機能が低下している利用者が多く、食事形態や食事姿勢など個別対応で食事介助を行っているが、経口摂取ができない状態で入院する利用者が増えている。
- ③ 障害の重度化、重症化が顕著になり、障害と疾病を併せ持つ利用者が増加しており、健康管理や栄養管理が課題となっている。

3 その他の取り組み状況

(1) 保護者等からの苦情処理

利用者に対する要望等については、来苑日時の全体会や個別懇談の時間を利用し、その都度話し合いを行い相互理解に努めた。

(2) ヒヤリ・ハット状況

平成27年度中のヒヤリ・ハットは137件あったが、丘内で定期的に会議を行い事故防止に努めた。

(3) 成年後見制度の普及啓発

平成27年度末登記済件数 14件

(4) 個別支援計画書の見直し

半年ごとに個別支援計画の見直しや個別に話し合いを行い、利用者の支援等について相互理解を深めた。

(5) 在宅障害者に対する支援

短期入所サービスを延べ34日間（実利用人数3名）提供した。

4 今後の重点課題

- (1) 職員間のコミュニケーションを高め、共通理解と一貫性のある支援サービスに努める。
- (2) 利用者一人ひとりのニーズに基づいた個別支援計画書の充実を図る。
- (3) リハビリ、作業療法、ミュージック・ケア等の日中活動の充実に努める。
- (4) 加齢化による疾病に応じた再発防止並びに重度化による介護技術の向上に努める。

5 居宅者を対象とした生活介護

(1) 利用者の状況

- ① 登録者 3名（男子2名、女子1名：富山市3名）
- ② 開設日数 134日
- ③ 利用延人数 186名

(2) 提供したサービス内容

送迎、食事（昼食）、入浴（特殊浴）、健康チェック（検温、血圧測定、体重測定）、創作活動（書道、絵画）、ミュージック・ケア（火曜日）、作業療法士による相談・リハビリ、理容、外出など

障害福祉サービス事業所萌黄 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分		障 害 支 援 区 分						計	
		非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5		区分6
生活介護	男子			2	8	4	2	1	17
	女子			1	6	7			14
自立訓練	男子			1					1
	女子					1			1
計				4	14	12	2	1	33

＜年度内異動＞

- 生活介護 ・退所者… 3名（やまびこの丘1名、こだまの丘1名、他施設1名）
 ・入所者… 6名（萌黄自立訓練4名、他施設1名、自宅1名）
- 自立訓練 ・退所者… 5名（萌黄生活介護3名、あおぞら就労継続1名、自宅1名）
 ・入所者… 0名

2 支援状況

(1) 内 容

① 健康と安全の確保

- ア 定期健康診断（血液検査、尿検査、体脂肪検査）を年2回実施した。
- イ 体重測定（月1回）、血圧測定（月1回）を実施し、健康状態の把握に努めるとともに、異常があれば、家庭やかかりつけの病院等へ連絡した。
- ウ 歯科医師による検診を踏まえ、昼食後の歯磨きを徹底し、虫歯予防に努めるとともに家庭に検診結果を報告して必要に応じて治療を勧めた。
- エ 本人の希望によりインフルエンザの予防接種を実施したほか、インフルエンザ予防の対策としてうがいや手洗いを徹底した。
- オ 情緒不安や問題行動のあるケースについてはケース会議を開き、意思疎通を図ったほか、家庭に報告するとともに、精神的安定が図られるよう支援した。

② 日常生活

- ア 入浴……希望する利用者には、週1回の入浴を実施した。
 入浴時には、男子のひげ剃りや女子の顔そりも行い、清潔に心がけ身だしなみにも気をつけるよう支援した。
- イ 食事……落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと食事ができるよう心がけた。
 配膳当番や献立の放送当番などの係についても意欲を持って取り組めるよう支援した。
- ウ その他…理髪や緊急時の通院付き添いなどのサービスを提供した。

③ 日中活動

- ア 利用者の希望を取り入れ、また適正を見極めながら作業班を選択し日中活動の充実を図った。

区 分	名 称	活 動 概 要
生活介護	日常生活班（9名）	洗濯物の仕分けとたたみ作業
	社会生活班（10名）	アルミ缶プレス作業
	造形活動班（1名）	日用雑器、陶器製品製作
	創作活動班（7名）	刺し子、ビーズ通し作業
	環境整備・木工班（1名）	除草、木磨き、牛乳パック切り作業
	生産活動班（2名）	野菜等生産作業
	工芸班（2名）	機織り作業
	内職班（0名）	内職作業
自立訓練 (生活訓練)	日常訓練班（1名）	洗濯物の仕分け、たたみ作業
	社会訓練班（0名）	アルミ缶プレス作業
	就労訓練班（1名）	パン生産、就労移行作業
	造形活動班（0名）	日用雑器、陶器製品製作

イ 「リズム体操」や「ミュージック・ケア」、「よさこい」には、ほぼ全員の利用者が参加し、リハビリテーション効果やストレス解消に役立った。

④ 余暇活動

ア 趣味的活動として、希望により月1回「絵画教室」、「和太鼓クラブ」、「抹茶」、「書道」に参加した。

また、「フラワーアレンジメント」も年4回開催した。

イ 週1回、全体活動の日を設けて「共同作品の製作」、「レクレーション」、「ゲーム」、「誕生会」、「調理実習」などを行い、親睦を深め助け合いや思いやりの心が育つように支援した。

ウ 「遠足」、「バスドライブ」、「社会見学」などの行事を開催し、社会的視野を広めると共に社会ルールやマナーを学ぶ機会とした。

(2) 問題点

利用者の能力に大きな開きがあるとともに、年齢も18歳から76歳までと幅が広いことから、利用者一人ひとりに適したサービスを提供するためには、他の事業や部署との連携を取ることが必要となっている。

3 その他の取り組み状況

(1) 地域や関係機関との連携

利用者のニーズに基づいた個別支援計画を行うため、行政などの関係機関、地域支援事業やヘルパー、医療機関、家族など、利用者に関わる支援スタッフと連携をとりながら支援を行った。また、必要に応じて関係者によるケア会議を開いた。

(2) 家族、後見人との交流

① 利用者の日々の生活を理解してもらうため、萌黄と家庭での様子を毎日連絡帳に記入し、本人に対する相互理解を深めることに努めた。また、送迎の際にも出来る限り家族の方に対して利用者のその日の状態について連絡した。

② 個別支援計画への同意を得る際、個別懇談（生活相談）を実施し、支援についての相互理解に努めた。

(3) 利用者の送迎

大沢野、婦中、富山、南富山、月岡方面の5コースを設定して送迎を実施し、利用者の利便性に努めた。

4 今後の重点課題

(1) 利用者の能力や年齢の幅が広いことから、日中活動は12班体制に細分しているが、活動内容が一人ひとりのニーズに適したものとなるよう充実に努める。

(2) 自立訓練の利用者に対しては、地域生活が出来るよう個別支援の充実に努める。

(3) 関係各機関、支援学校に対して働きかけて利用者の確保に努める。

就労支援事業所あおぞら 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区分	障害支援区分					計	
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4		区分5
就労移行	男子	3					3
	女子	2					2
就労継続 B型	男子	2	1	4	1	3	11
	女子						
計	7	1	4	1	3		16

<年度内異動>

- 就労移行 ・退所者… 3名（一般就労1名、あおぞら就労継続2名）
 ・入所者… 2名（自宅2名）
- 就労継続 ・退所者… 2名（はるかぜの丘1名、他施設1名）
 ・入所者… 13名（はるかぜの丘1名、萌黄生活介護1名、萌黄自立訓練3名
 あおぞら就労移行2名、工房C o C o 2名、自宅4名）

2 支援状況

(1) 内容

① 訓練、生産活動

就労支援の利用者ニーズに柔軟に対応できるよう、就労継続支援B型の事業を加え、多機能型事業所とした。

ア 就労支援講習として、就労に必要なルールやマナー、伝達、応対及び履歴書の書き方などを指導した。

イ 清掃（屋内外、車椅子、車両）及び紙袋製作に農作業を加えての訓練を実施した。

② 実習

各職場に出向き、野菜の袋詰め、車椅子清掃、車両清掃などの実習を行った。

③ 求職活動

就業支援ワーカーやジョブコーチの協力も得ながらハローワークでの求職活動支援、就職面接の付添いなどを行った。

④ 職場定着

採用前試用期間及び採用後において、就業者と事業主や従業員との関係が良好に保たれるよう相互に対し支援を行った。

⑤ 相談、個別支援計画作成

利用者及びその家族が希望する生活や心身の状況等をアセスメントし、就労に向けて個別支援計画を作成した。

(2) 問題点

① 障害者雇用が好調なことや就労継続支援A型事業所の増加などにより、就労移行支援事業の利用希望者が激減し、事業所の活動に支障を来している。

② 発達障害などを持つ利用者が多くなり、専門性が求められるとともに作業面や生活面における支援も多岐にわたっていることから支援の充実が求められている。

3 その他の取り組み状況

(1) 利用者の就労意欲を高める実習先及び就労の可能性のある実習先を開拓した。

(2) 利用者の送迎を富山地区、旧大沢野町周辺、月岡周辺の3ルートで実施した。

4 今後の重点課題

(1) 利用者の能力、就労の可能性を見極め、適性に合った職場探しを行うための情報収集及び実習先の開拓の強化が必要である。

(2) 工賃向上に向けた生産活動の充実が求められている。

(3) 一般就労が難しく、福祉的就労を希望する利用者に対しては、利用期間経過時に引き継ぐサービスへつなげていく必要がある。

就労継続支援事業所工房COCO 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分						計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男 子	1	3	3	3			10
女 子		2	4	3			9
計	1	5	7	6			19

- <年度内異動>
- ・退所者…1名（あおぞら就労継続1名）
 - ・入所者…1名（一般就労1名）

2 支援状況

（1）内 容

① 訓練

一般就労に必要な知識、能力の向上のために必要な訓練、就労に必要なルールやマナーのほか接客態度、挨拶、身だしなみなど社会性を高める指導を行った。

② 生産活動

パン、クッキーなどの食品加工や販売を行い、生産活動における事業収入から必要経費を差し引いた額に相当する金額を工賃として支払った。

③ 工賃向上

近隣地域や各種イベントにおける販売のほか苑内での消費や販売活動を推進するためパティシエを招いて研修会を開き新商品の開発に努めた。

④ 余暇活動

慰労会を開催し利用者の作業意欲の励みとなるよう支援した。

⑤ 個別支援計画作成

個別支援計画を作成し、保護者と個別に話し合いを行い、利用者の支援等について相互理解を深めた。

（2）問題点

接客態度などの能力が不足している利用者が多いことから、販売活動に参加できる利用者の確保が難しくなっている。

3 今後の重点課題

- （1）就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練や支援の充実に努める。
- （2）工賃向上に結びつく販売先や販売ルートの開拓を進める。

セナー苑グループホームほのか 平成27年度事業報告書

1 利用者の状況（平成28年3月31日現在）

区 分	障 害 支 援 区 分					計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	
船 嶺 の 家 (男子)	2		4	2		8
上二杉の家(男子)	1	2	3	1		7
長 附 の 家 (女子)	1		2	1	2	6
桜ヶ丘の家(男子)			3	2		5
野 田 の 家 (女子)			2	2	3	7
サルビアの家(女子)				2	3	5
計	4	2	14	10	8	38

<年度内異動> ・退所者…1名（はるかぜの丘1名）

・入所者…0名

2 支援状況

(1) 内 容

① 健康と安全の確保

ア 定期健康診断（血液検査、尿検査、体脂肪検査）を年2回実施した。

イ 体重測定、血圧測定を実施し、健康状態の把握に努めるとともに、異常があれば医務部に連絡のうえ病院等に通院した。

ウ 歯科医師による検診を踏まえ、虫歯のある利用者は治療を受けた。

エ インフルエンザの予防接種を実施したほか、インフルエンザ予防の対策としてうがいや手洗いを徹底した。

オ 火災や地震を想定した避難訓練を実施し、利用者の安全の確保に努めた。

② 日常生活

ア 基本的な生活習慣を維持し、健康で安全な生活が送れるよう、食事を提供するとともに、健康管理、相談、助言、金銭管理などの援助を行った。

イ 能力の差に注意を払いながら、基本的な生活習慣の確立に向け、入浴、排泄等の介護を行った。

ウ 利用者のニーズに応じた社会経験の機会を提供し社会参加と生き甲斐が持てるよう、買い物、旅行、地域活動、スポーツ大会参加等の余暇活動への支援を行った。

(2) 問題点

① 土日等の日中における利用者の把握（体調の変化など）には限界がある。

② 病気の利用者の食事に関して出来る限り努力しているが献立には限界がある。

3 その他の取り組み状況

(1) 利用者の日頃の精神面、生活、健康状況について、定期的に打合会を開催し、個別ケースの検討を行った。

(2) 成年後見制度の普及啓発を行った。

平成27年度末登記済件数 5件

4 今後の重点課題

(1) 世話人と支援員との連携を密にして、きめ細かな支援に努める。

(2) 世話人の安定的な確保に努める。

(3) 利用者の高齢化や多様化する支援業務に対応するため、体制の強化を図る。

地域総合支援部 平成27年度事業報告書

1 障害者就業・生活支援センター事業（平成15年1月～）

厚生労働省から雇用安定等事業、富山県から生活支援等事業の委託を受け、就職や職場への定着が困難な障害者に対し、相談・助言等により、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行った。

(1) 雇用安定等事業

ア 障害者に対する相談・支援

- | | |
|--------------|--------|
| ① 相談支援件数（延べ） | 4,055件 |
| ② 就職件数 | 60件 |

イ 事業主に対する助言

- | | |
|------------|--------|
| ① 支援対象事業者数 | 120事業所 |
| ② 相談支援件数 | 1,311件 |

ウ 職場実習等のあっせん

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 職業準備訓練 | 3件 |
| ② チャレンジトレーニング事業 | 42件 |
| ③ 委託訓練 | 2件 |

エ 職場定着支援

- | | |
|---------------|------|
| ① 職場訪問 | 582件 |
| ② 在職者のための交流活動 | 6回 |

オ 関連機関との連絡調整会議等

	12回
--	-----

(2) 生活支援等事業

障害者本人や家族及び関係機関からの相談に応じ、地域生活に必要な情報提供、助言、支援を行った。

健康管理、金銭管理、衣食住等に支援が必要な方に対しては定期的に電話連絡や家庭訪問を行い、見守り支援及び他機関への同行支援等を行った。

また、職場、医療機関、行政機関等と連携し、支援、ケース会議を開催した。

- | | |
|--------------------|------|
| ① 登録者 | 640名 |
| ② 家庭訪問 | 35件 |
| ③ 電話相談（本人・家族） | 570件 |
| ④ 外出支援（買物・通院・通勤付添） | 47件 |
| ⑤ 関係機関訪問等 | 466件 |
| ⑥ ケース会議 | 33件 |
| ⑦ その他生活支援 | 430件 |

2 職場適応援助者事業：ジョブコーチによる支援事業（平成15年4月～）

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の委託を受け障害者が職場に適応し、安定した職業生活を送れるよう職場適応援助者（ジョブコーチ）が、障害者と一緒に作業を行い職場環境を把握し、助言、改善を行う等、障害者やその家族、事業主に対する支援を行った。

- | | |
|-----------|----|
| ① 新規ケース | 8名 |
| ② フォローアップ | 8件 |

3 障害者相談支援事業

相談支援体制が強化されたことに伴い、セーナー苑相談支援事業所Weネットにおいて、次の事業を実施した。

(1) 富山市障害者相談支援事業（平成19年4月～）

富山市から委託を受け、障害者及び障害児の保護者からの相談に応じ、情報の提供及び助言、その他障害福祉サービスの利用、権利擁護のための援助等必要な支援を行った。

① 訪問相談	513件
② 来所相談	545件
③ 同行支援	55件
④ 電話相談	66件
⑤ 個別支援会議	48回
⑥ 関係機関調整	3件

(2) 富山市基幹相談支援事業（平成25年1月～）

富山市社会福祉事業団から委託を受け、富山市障害者福祉プラザにおいて障害者及び障害児の保護者からの相談に応じ、情報の提供及び助言等必要な支援を行うとともに相談支援事業者等への情報提供や助言等を行った。

① 訪問相談	118件
② 来所相談	35件
③ 同行支援	53件
④ 電話相談	205件
⑤ 個別支援会議	38回
⑥ 関係機関調整	25件

(3) 指定計画相談支援の提供（平成24年4月～）

サービス等利用計画の原案作成並びにサービス利用計画のモニタリングを行い、利用者並びに市町村に提供した。

① サービス等利用計画の作成	374件
② モニタリング	337件

4 障害者雇用促進事業（平成23年4月～）

富山県から委託を受け、障害者雇用推進員を配置して、事業所訪問等により障害者の各種雇用施策の周知、啓発等を行い、障害者の雇用促進を図った。

① 訪問事業所数	309件
② 障害者雇用好事例の収集	10件
③ とやま障害者フレンドリー企業への認証事業所	3件

5 ボランティア・見学者の受け入れ

施設や利用者への理解を促進するため、積極的にボランティアや見学者の受け入れを行った。

① ボランティアの受け入れ	4件	89名
② 見学者の受け入れ数	18件	182名

6 実習生の受け入れ

福祉系の大学、短大、専門学校等の施設実習の希望に対し、（社会福祉士、介護福祉士、ヘルパー等の資格取得のための現場演習）受け入れ窓口として調整・指導を行った。

実習生の受け入れ	13校	28名
----------	-----	-----

医務部（診療所） 平成27年度事業報告書

医務部（診療所）は、利用者が日常生活を安全で安心して過ごすことができるよう、常勤医師と看護師が月1回の診療、定期健康診断等を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めた。

また、身体の異常や疾病の急変時は、総合病院地域連携室と連携を図り速やかに対応した。

今後もますます利用者の重度化や高齢化が進むと考えられるため、今まで以上に医師、看護師、作業療法士、支援員の連携を強化し、疾病の早期発見、早期治療に努める。

1 診 察

入所者及びグループホームの利用者のうち常備薬服用者377名の診察を定期的に行った。

- ① 精神科診察（月1回）
- ② 内科診察（年4回）、血液検査（年2～4回）

2 定期健康診断

入所者及び通所利用者451名が受診した。

- ① 血液検査、尿検査、血圧、聴診等（全員・年2回）
- ② 心電図検査（35歳以上、367名・年1回）
- ③ 胸部レントゲン（全員・年1回）

3 歯科検診

入所者及び通所利用者442名が受診した。

歯科医師による歯科検診及び歯科衛生士による歯磨き指導（年1回）

4 成人病健診

35歳以上の希望者延べ221名の利用者が受診した。

- ① 子宮健診（68名）
- ② 乳房健診（67名）
- ③ 胃ガンリスク検査（86名）

5 感染症対策

入所者及び通所利用者442名及び職員234名がインフルエンザワクチンを接種した。

平成27年度はインフルエンザの流行はなく、罹患者は1名であった。

6 職員の健康診断

日勤のみの勤務者は年1回、当直勤務者は年2回の健康診断を実施した。

- ① 診療所の健診
延べ238名の職員が受診した。（春90名、秋148名）
- ② 外部健診機関の受診
延べ164名の職員が受診した。（35歳以下子宮頸ガン検診含む。）